



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

意思決定に影響を与える  
「現在バイアス」

先月は台風による大雨で日野町でも土砂崩れが一部に起こりました。被災された方にはお見舞い申し上げます。私の官舎近くの板井原川も多量の土砂が流れ込んで美しかった風景がゴツゴツした石がいっぱいの殺風景なものになりました。早く元通りになってほしいものです。

さて、今月は先月に続いて医療現場での意思決定に影響を与えるさまざまな因子について述べてみます。まず、最もよく見られるのが現在バイアスです。これは将来起こるであろう事象を過小評価し、今、目の前にあるものを優先すること

です。

例えば、肥満の患者さんは目の前にあるケーキを食べたいという気持ち優先してしまい、将来起こるさまざまな疾患、糖尿病や心筋梗塞の発症は過小評価し目をつむるようになります。ダイエットをしようとしてもいつも先延ばしにする、よくあることです。

別の例としてはがんが発見されても、いま症状がないと将来起こる疼痛や命の危険を過小評価し、手術を躊躇するような場合です。現在バイアスを防ぐには自分が現在バイアスに陥っていないか立ち止まって考えることが必要です。

中には深刻な影響を及ぼすことも。非医学的な因子が影響していないか確認を

よく似たものに現状維持バイアスがあります。これは現状を変えたほうがいい場合でも現状を維持することを好む傾向のことです。これは日常でもよくあることです。医療の現場では深刻になることがしばしばです。現在行っている治療が効かなくなっている、あ



るいはより有効な新薬が出たにもかかわらず、これまでの治療法に固執するような場合です。これは患者だけではなく、医者にも見られます。むしろ、医者の方が多いのかもしれない。次にヒューリスティックスというものがあります。これは直感的思考法というもので、人が意思決定するとき、論理的に考えるのではなく、身近な情報や直感で決定することです。

例えば、医師が説明する治療法ではなく、知り合いから聞いた治療法を信じてしまうことです。知人から民間療法が良いと聞いて飛びつくのはその典型です。時には医師がこのヒューリスティックスを利用するときもあります。私も「同じ薬を飲んでいますよ」というと、「じゃ飲みます」ということになります。

このように意思決定には純粹に医学的な情報とは違う因子が影響します。自身が意思決定の場に立つたとき、このような因子が影響していないか、ゆつくり考えてみることをおすすめします。